

古都へのいざない

たす
～浦添グスクを温めて、歴史を想起する～

■コンセプト

計画地は、昔からの地形を残している北側斜面と、一部復元されている「尚寧王の道」へ登る西側園路に接しており、歴史学習の場として最適な場所である。

当計画は、浦添大公園の管理事務所の機能にとどまらず、歴史学習施設として位置づけた計画をすることが重要である。

歴史や文化にふれあえる場として公園の利用と一体となった施設とし、昔の情景を彷彿とさせるような“歴史を想起させる施設づくり”を提案します。



南側駐車場から見る



西側園路

西側園路から、利用者を当施設中庭へと導く。緑化した管理棟の屋根の上を歩く。



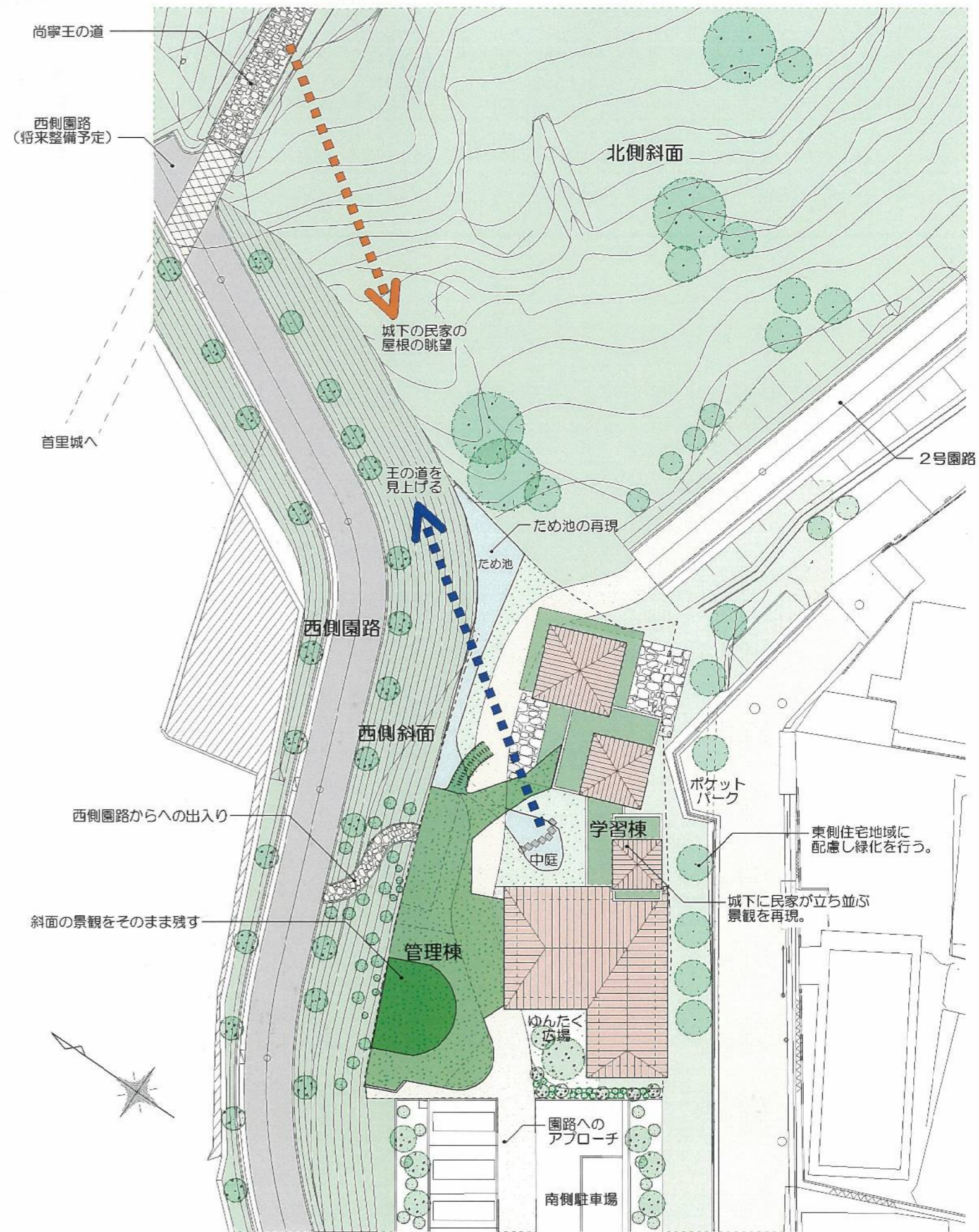
民家が立ち並ぶ景観を再現(尚寧王の道より見下ろす)

■配置計画

- ・西側斜面の緑地帯を現況のまま残すために、管理棟を緑化し斜面の一部とする。
- ・学習棟は、木々の隙間から見え隠れする赤瓦屋根が重なり合う原風景を再現している。
- ・浦添グスク内には多くの井戸(カー)があり、その斜面下部にあたる計画地付近には、水をたたえた堀があったことが確認されている。その豊富な水を景観に活かすとともに、子供たちの親水空間広場として提供している。
- ・「尚寧王の道」へ向かう西側園路は重要な場所と考え、管理棟の丘陵屋根を歩いて当施設の中庭へ降りるように導いている。

■ライフサイクルコストを踏まえた計画

- ・可能な限り諸室は、建具を開け放ちオープンエア(自然の風を入れ込む)とし、設備機器の削減による環境負荷の低減を図る。
- ・安定した自然光を北面から取り込むことにより、照明負荷の低減を図る。
- ・屋上緑化をすることによって、屋根スラブ面からの熱負荷の低減を図る。
- ・ため池の水を循環させて、植栽への散水に利用する。



NO SCALE

■計画概要
 構造：RC造平屋建
 床面積：管理棟 91.38㎡
 学習棟 155.77㎡
 延面積：247.15㎡
 ※屋外休憩所(40.08㎡)を除く

■ 動線計画

南側駐車場から2号園路への利用者アプローチは、動線を短く明確に接続している。中庭(親水空間)に面することで、自然を感じる広がりのある園路を計画している。学習棟の利用者と公園のみの利用者の動線は、管理棟を通り分岐して休憩所へ至る。管理用の車路は使用頻度が少ないことから、利用者アプローチと共有している。

■ 平面計画

- ・ 学習棟：歴史へいざなう学習棟は、アプローチを介して管理棟と明確に分けて配置することで、足を踏み入れると歴史を想起するような空間とすることを試みる。歴史学習の順路に沿って諸室を配置し、北側斜面の緑地景観を消さないように分散配置している。歴史上重要な「尚寧王の道」を学習の場所から見えるように配置し、歴史を身近に感じ学習意欲を引き出すような空間を提案している。
- ・ 学習室兼休憩所：屋外、屋内一体となった利用ができる。
- ・ 中庭：親水空間を設け、自然と一体になって歴史を学ぶことができる。
- ・ 管理：執務室から施設全体を見渡せるようにし、管理しやすくしている。閉館時にはシャッターを開けて施設内の管理をすることができる。
- ・ トイレ：公園のみ利用する方も想定して屋外に設け、施設内からは雨にぬれないように庇を設けて移動できるようにしている。



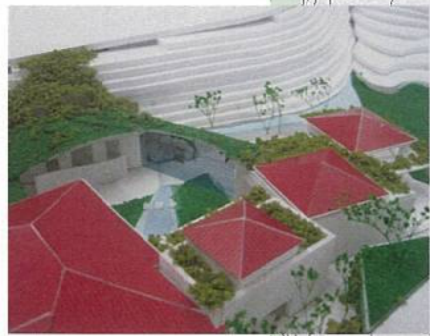
中庭(親水空間)に面したアマハジデッキ
展示室と学習室を行き交い、
自然と一体になって歴史を学ぶことができる。



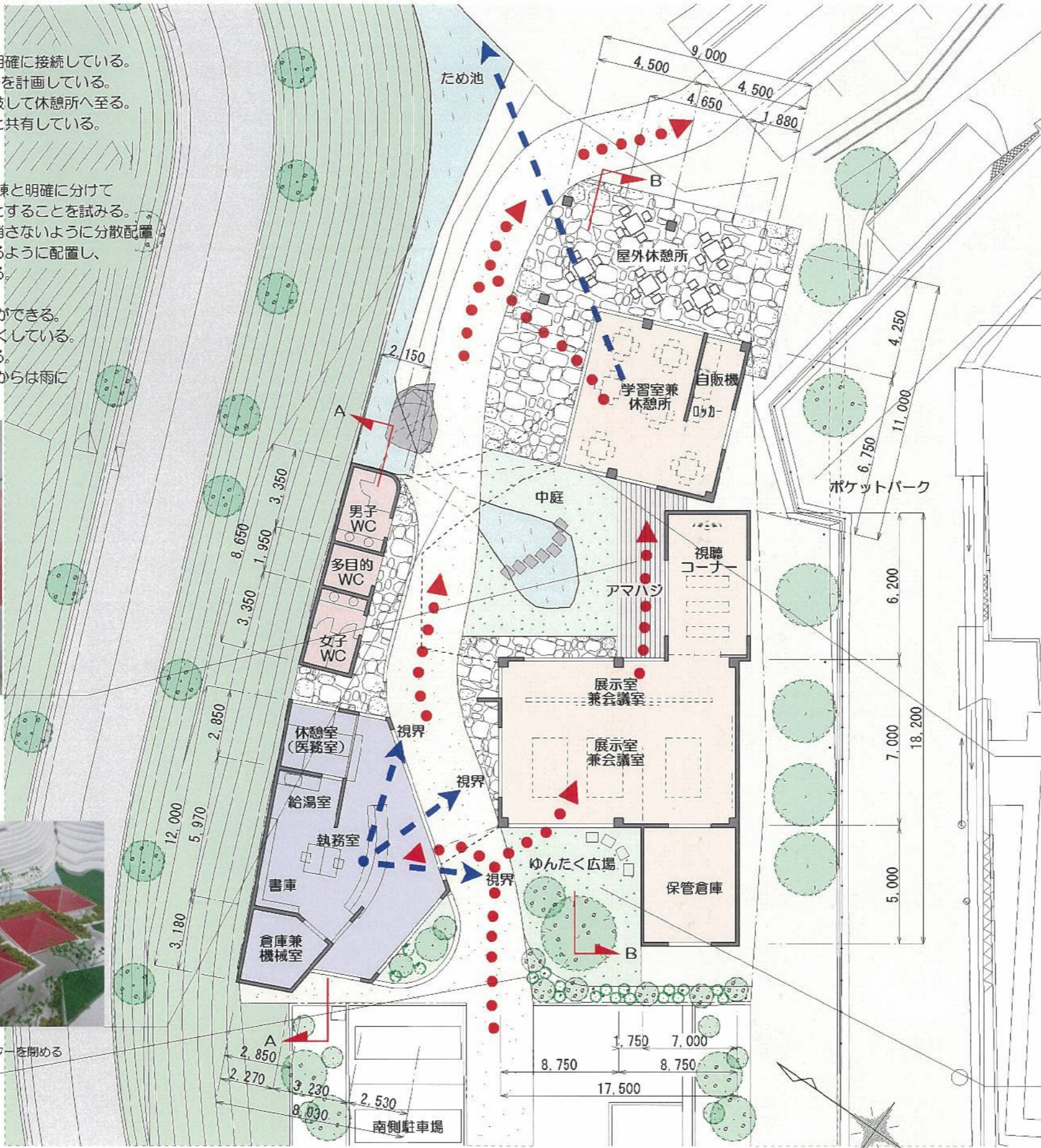
<親水空間の参考>



エントランス
~執務室の職員が出迎える~



休憩所からトイレにかかる庇
閉館時には庇下にあるシャッターを開ける



東側住宅街へ考慮して緑化。
ポケットパークを設けて
地域住民へ提供



<ポケットパークの参考>



休憩所、中庭から尚寧王の道を見る
休憩所は屋外、屋内一体となった利用ができる
また、総合学習の利用として提案。



ゆんたく広場
シンボルツリーの前で、待ち合せやいいの場として利用。

